

す。そのようなことから、1年で黒字が出たから、だとしたら、やはりいろいろのそういった要望や要請の中で、早く指定したほうがいだろうという形で指定管理にしたのが実情でございます。そして相手方は、能生町観光物産センターが、指定管理を受けたという流れでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

経過はね、ずっと言います。ただ、その都度、私は駄目でと言ったり、それはやめたほうがいい。その結果、特別随意契約にしる何にしる、全部、市長、あなたの判断です。これはやっぱり普通の会社、社長であったら、もう経営責任問われますよ。

○議長（松尾徹郎君）

時間が参りました。

○17番（古畑浩一君）

株主の人は、みんな優しいから言ってこないと思いますけど、今回がそうならないように、やっぱり転ばぬ先のつえで言っておきますが、契約内容は。

○議長（松尾徹郎君）

時間が参りました。

以上で、古畑議員の質問は終わりました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○17番（古畑浩一君）

大事な話、してるんですよ。お願いしますよ。

終わります。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午後1時18分 休憩〉

〈午後1時18分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。〔6番 伊藤 麗君登壇〕

○6番（伊藤 麗君）

一般質問の冒頭ではございますが、私、伊藤 麗は、3年間お世話になりました清新クラブを脱退いたしまして、これからは糸魚川の未来を魅せる会として活動してまいります。今は、たった

1人ですけれども、未来、もしかしたら最大会派になっているかもしれませんので、温かい目で見守っていただけますと幸いです。

それでは、事前に通告いたしましたものから読み上げさせていただきます。

1、民間組織である人口戦略会議が公表した消滅する可能性がある自治体に糸魚川市が含まれたことについて。

消滅可能性都市リストは、都市の持続的な発展と地域の魅力向上に向けて、問題を解決するためのアクションプランや政策の策定を促すことが目的であります。糸魚川市の未来に対する懸念を解消し、再活性化を図るために、地域住民、自治体、企業などが協力して取り組む必要があると思います。

具体的な対策は、人口定住の促進、外部からの人材の活用、地域づくりの振興などが考えられますが、糸魚川市の課題に応じた個別の対策や戦略を立てる必要があると考えます。

(1) 庁舎内でこれについて話し合いが行われたものと思いますが、その経過と結果を伺います。

(2) 当市においての課題は多くあると思いますが、現在の行財政は健全なのか。自立可能性都市を目指すビジョン・戦略があるのか。医療、高齢者医療、高齢者・障害者福祉、公共交通、観光の産業化、教育施設の適正配置、キャリア教育、防災・減災対策での課題とそれに対する取組はあるか伺います。

2、子育て支援と子供からお年寄りまで幅広く関わる教育について。

(1) 産前産後ケアについて。

① 産前産後ヘルパー事業の利用実績と利用者からの意見聴取は行っているか伺います。

② 産後ケア事業の宿泊型、通所型、訪問型の利用実績と利用者からの意見聴取は行っているか伺います。

(2) 義務教育課程における食育について。

学校給食で県内初の市内で狩猟された生肉ジビエを調理した献立が提供されましたが、それに至るまでの経緯と実施された学校の児童の反応を伺います。

(3) 中学校の部活動地域移行と市外、県外からの生徒受入れについて。

① 部活動の完全移行に向けて、当市における課題は何か伺います。

② 大の里をはじめとする海洋高校出身者の活躍を契機に、市外からの生徒の受入れ方針を再度見直す考えがあるか伺います。

(4) 高齢者の生涯スポーツの振興について。

市内で、生涯スポーツとして熱心にゲートボールに取り組む市民が、すばやく能生の老朽化による活動停止を危惧していますが、市としての方針を伺います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、5年度から人口減少対策プロジェクトにおいて、情報収集やデ

一タ分析を進め、事業の新設・拡充を行っております。

また、今後は、これまでの施策に加えて、若者、特に女性の定着に向けた取組を進めてまいります。

2点目につきましては、限られた財源の中で持続可能な行財政運営に努めているところでございます。

人口減少が進むことで、各分野において様々な影響が出てくるものと捉えており、引き続き人口減少対策に推進してまいります。

2番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目の1つ目につきましては、5年度は12人の利用がありました。また、3年度と5年度に利用者アンケートを実施しております。

2つ目につきましては、5年度は訪問型の利用者が53人、通所型の利用者が26人、宿泊型の利用者は、ありませんでした。

また、10か月児健診時に実施するアンケート等でご意見や感想をお聞きしております。

2点目につきましては、今年2月に栄養士がジビエ料理講習会に参加した際、野生動物による農作物の被害状況と、捕獲した野生動物の処分の現状を知り、命を無駄にしないことを子供たちに伝えたいと考え、学校給食での提供を企画したものであります。

今月19日と26日の2回に分けて、全小・中学校でイノシシ肉を使用したハンバーグを提供しますが、既に実施した学校の児童生徒からは、おいしかった、また食べたいというふうに好評でございました。

3点目の1つ目につきましては、保護者、生徒への理解の促進、練習場所や大会会場への移動手段、指導者や練習場所の確保、保護者の費用負担などが課題として上げられております。

2つ目につきましては、平成29年12月に策定しましたルールに基づいて、運用を進めております。

4点目につきましては、すぱーく能生の所有、運営管理者である社会福祉協議会に対し、現在の施設が維持できるように修繕費の補助を行っておりますが、将来的な施設の在り方につきましては、移転先等も含めまして、協議・検討を進めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、質問の通告の番号2から先に質問させていただきたいと思います。

（1）の産前産後ヘルパー事業についてお伺いいたします。

令和3年度と令和5年度でアンケートを実施されたということなんですけれども、利用者アンケートの内容をそれぞれのプライバシーに関わらない範囲で、どのようなご意見があったか、お教えいただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

利用者アンケートの中では、非常にどんな点がよかったか悪かったかというようなことでお聞きしておりますけれども、こちらにつきましては、家事等を手伝っていただいて本当に助かったということですか、利用時間を30分単位ということで設定しておりますけれども、それもよかったというようなご意見をいただいております。

また、ヘルパーさんが対応しているわけでありましてけれども、とても親切で子供をかわいがってくれたりお話しをしていく中で、育児の不安が軽減したといったような感想をお聞きしております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

大変いいご意見ばかりだったと思うんですけれども、何か課題だったりだとか、改善を求めるような意見というのはなかったでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

この事業につきましては、育児に不安のある方とかそういった形で、非常に誰でも利用できるというような形ではないという中での部分もございまして、実際の今回のアンケートの回答状況につきましても数は非常に少ない状況でございます。今後、また利用していただく中で、そういった課題等も出てくるかなというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今お答えいただいた事業は、産前産後ヘルパー事業じゃないと思うんですが、産前産後ヘルパー事業について教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

産前産後ヘルパー事業ということで、こちらの事業につきましては、妊娠中、産後1年以内で育児が困難であるという方、また、多胎であったりというところでの、そういった方について家事ヘルプというような形で事業を提供させていただいております、そのような形で先ほど感想等もお答えさせていただいたところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

分かりました。

私のほうに寄せられたご意見なんですけれども、お伝えさせていただきます。

先日、めでたくご出産を無事にされた方なんですけれども、重症悪阻と診断された。つわりがひどかったということで、その診断を受けたのが妊娠6週目ということで、この段階では、実は母子手帳はもらっていなかったということで、産前産後ヘルパー事業を実際この方利用されていらっしゃるんですけれども、本当に利用したいときに実は使えなかったというお声を頂戴しております、それについて緩和の余地などがないか、お答えいただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こちらの事業につきましては、基本的には母子手帳が交付されてから対象となる事業というふうに捉えております。

やはり母子手帳の交付というのは、医師がその旨、しっかりとお子さんが育っていくかといったところを判断して、その時点で交付されるというふうに私ども認識しておりますので、そこを基準として捉えていきたいというふうに思っております。

ただ、今、議員おっしゃられるようなケースもあるかと思っておりますので、そういった部分につきましては、市の保健師がしっかりと寄り添って、聞き取りをさせていただく中で、何か支援できるものがないかということと一緒に考えてさせていただきたいなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

この方、恐らくつわりのときだったんだと思うんですけれども、お会いしたときすごく痩せていらっしゃって、私、そのとき妊娠してらっしゃるというのを知らなかったの、とても何か体調が悪そうだなというふうに思っていました。私自身も経験から、つわり経験してるんですけれども、点滴したりとか、日帰りでしたけど入院したりという経験がありました。このときって、初期の時期というのは検査の費用も自費ですし、母子手帳をもらう前なのでそういう状況なんですけど、この方の場合、母子手帳が必要だということを要綱で読んでたので、母子手帳をもらってから市に申入れをして、事業者の調整をしてもらって、利用可能通知が9週目に届いたということで、さらにその後、事業者と契約をして、初回の利用が11週の時だったということでお話を伺っています。察するに、この5週間すごくつらかったらうなというふうに思うんですけれども、このお話聞いて、市長もしくは副市長、何かご答弁いただければと思います、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今やり取りを聞かせていただきまして、非常にそういう方もおられるというのを、今聞かせていただいているわけですので、何とかそういったことに対しても対応できないか考えていきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

非常に前向きなご答弁いただけて、よかったと思っております。ぜひ検討のほうをよろしく願いいたします。

(2)についてなんですけれども、産後ケア事業の宿泊型が、利用が令和5年度ゼロ人だったということなんですけれども、現在時点で糸魚川総合病院で宿泊型が実施されていると思うんですけれども、ゼロ件というのがやっぱり気になりました。1泊2日で1万円という宿泊料というか利用料がかかるというところがネックなのではないかなというふうに拝察するわけなんですけれども、何か検証などはされていらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今、議員お話のあった宿泊型につきましては、利用者のご負担については1万円ということではございますけれども、市のほうで3万円を負担させていただいて、事業実施というような制度設計

になっております。実際、今ご利用がないんですけれども、10か月児健診で、どうしてご利用をなさらなかったかということをお聞きした中では、やはり夫の協力があつたからですとか、家族の協力があつたからということで、利用する必要がなかったというようなご意見をいただいております。

ただ、制度としてございますし、糸魚川総合病院と懇談する中でも、こういったところの利用は、制度としてありますので、ぜひ利用していただきたいというようなお話もいただいておりますので、今後、ますますの周知も含めて対応していきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今後、民間のNPO法人などでも宿泊型が検討されていくのかなと。そういうふうに伺っているんですけれども、民間が、また糸魚川総合病院と別で実施する場合の料金設定というの、足並みを合わせるという感じになるのでしょうか。もし何かその辺り、伺ってるようでしたらお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今後そういった予定、見込みがあるというようなことも承知しております。契約については、基本的には同じような形になるように検討は進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

10か月児健診でのアンケートの中では、家族で何とかできたので利用しなかったというのはすごくいいことだと思っております。

ただ、利用したいというときに利用できる安心材料が、1つある、糸魚川市の中に用意されてるということはとても大切だと思っております。もしこれが、料金が気になってちょっと利用できないというようなお声がまた寄せられるようであればお伝えしますので、またその際、ご検討いただければと思います。

では、次の質問に移ってまいります。

2の義務教育課程における食育についてなんですけれども、2月のジビエ料理のときの栄養士さんの気づきから始まった取組だったということで、非常にいいことだと思えました。

教育長に教えていただきたいんですけれども、学校教育における食育というのは一体どういうも

のなんでしょう、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

学校教育において、給食に関する指導、要するに給食の関係についての扱いは、どのような意義づけなのかということだというふうに思います。これは学校給食法、それから食育基本法の制定、それから食育推進基本法の制定等々のいろんな見直し、改定の作業が行われてくる中で、やっぱり子供たちの発育、成長、育ちに関しては、給食が占める割合が非常に大きいというふうな位置づけの中で、やはり最も大事な教育活動の一環として位置づけがされています。これは、いろんな教育活動を通して、給食の時間だけじゃなくて、いろんな教育活動の中でもやっぱり食べるというふうな部分のところは命の維持、健康の確保、それから健康の増進というふうな部分については、最も基本的な大事な部分でもあります。特に最近、給食の関係につきましては、地産地消の奨励とか命をいただくというふうな、最も根本的な部分のところの、手を合わせるというのはどういうことなのかということも含めまして、やっぱり貴い命をいただいて、皆さん方は命を維持してるんだというふうな部分のところのことも含めまして、やっぱりバランスのよい食習慣になるように、そして、学校での取組が、家庭での食、あるいは自分たちで食べるための食について考える。問題意識を持つというような部分も含めて、非常に大切な教育活動の一環に位置づいております。

したがって、子供たちは、給食をいつも楽しみに、楽しみに待っているのが学校現場ではありませんでしょうか。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ありがとうございます。本当にいろんな意味合いが含まれている大切な教育の一つなんだなということを理解させていただきました。

この19日に、私も能生小学校の給食の様子を見に伺わせていただきました。子供たちもおいしく、ちゃんと食べれるのかななんて思いながら行ったんですが、全く抵抗感なさそうに、ぱくぱくと食べていました。おいしいだとか、何か思ったより軟らかいとかや、ちょっと硬いんじゃないとか、そういう会話も聞こえてきました。食べながら栄養士の先生が作ったユーチューブ動画が流されていたんですけども、その内容がすごく私はよかったですと思っています。

その内容なんですけれども、ジビエの歴史、生産者さんのインタビュー、ハンターさんという感じで紹介されていたんですけども、ハンターさんからは現状の鳥獣被害に関する、何ていうんでしょう、問題提起のようなコメントもあり、最後に、先ほど教育長おっしゃったように命をいただきましょうというメッセージが入っていました。

小学校の低学年から高学年まで、すごく成長の差があると思うんですけども、全部の学年の子



供たちがそのユーチューブをしっかりと見ていました。そこで、すごくいい取組だと思ったんです。夕方のテレビでも放送されてましたし、そこでの、また生産者さんのコメントすごくよかったなと思っていて、獲るということも、まず大切なんだけれども、消費していくということが大事なんだということをおっしゃっていました。

このジオ給食というふうになるのだと思うんですが、学校給食のコンテストにチャレンジなんかもされていらっしゃるというふうに聞いたんですけれども、県内初の地産地消献立、ジビエに関してのことですから、このコンテストにぜひチャレンジしてほしいと思ってるんですけれども、もし勝ち進んだりした場合は、学校関係者だけではなくて、ぜひ市民に盛大に周知、広報していただきたいなと思うんですが、その辺りどうでしょう、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

そのコンテストにつきましても、また参加するかどうかも含めて、担当のほうで検討させていただきたいなというふうに思っております。もし本当に応募して、勝ち進みましたら、市内のほうの周知は、しっかりと図っていききたいなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

地産地消、ジビエという、私はフレンチを連想するんですけれども、子供の頃からこういうジビエのハンバーグだったんですけど、触れるという機会、すごくいいなと。家庭でなかなか、私はやらないのですごくいい機会だと思ったんですけれども、例えばここから関連性を持って、子供たちにフランス料理を頂くマナーの授業だったりとか、あと市内にはフレンチで、実際にこのハンターさんからのジビエを提供している料理屋さんもあると思うので、そういうところ、提供するということに見学に行ったりとか、そういうことも関連性を持って学習していくと面白いんじゃないかなというふうに思ったんですが、その食育というところに関連して、そういう考え方というのはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今回のこういった活動を通じてやっぱり子供たちのジビエ、動物に対する考えというのも変わってきている部分だったりということもございます。議員おっしゃられたような部分も、教育活動等の中でも取り入れていける部分があるんじゃないかというふうには思っておりますので、そうい

った点については、また今後の課題かなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、3の中学校の部活動の地域移行について、お伺いしたいと思います。

これに関して、地域移行に向けての課題を幾つか行政の1回目の答弁でいただいたんですけども、私のほうには、どちらかという指導者さんのほうから、これに関する不安というか、どういふふうになっていくと思うというふうなお話をいただいております、2回目の質問をさせていただきたいと思います。

地域移行に向けてなんですけれども、令和8年度から、休日の部活動は完全に地域移行ということで、そのほか平日は段階的にということなんですけれども、部活動と地域クラブ活動、それぞれ的前提というか、何かすみ分けのようなものを教えていただきたいんですけれども、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

地域クラブですが、今、生涯学習課のほうでは、運動部の活動を中心に、今地域クラブへの移行の作業を進めているところです。市内のジュニアスポーツ育成団体のうち、中学生の会員がいる団体を基として地域クラブができるようにというところで今進めております。地域クラブは、いわゆる学校で行っている部活を地域の方によって運営していくというイメージになりまして、ジュニアスポーツ育成団体というのは、これまでどちらかという競技力の向上を目指した目的を持っていますので、少しその考え方が、若干違いがあるというところで、恐らくそのびたっと合わないところで指導の方が今不安になられたりとか、そういうような状況になっているかというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

課長のご答弁で、どの部分に課題感があるかは十分行政のほうも認識しておられるんだというのが分かったんですけども、まさにその部分だと思っています。その部分のすり合わせというか、指導者の方も、もしかしたら、また新しく何か学びをしていただかなければいけないのかもしれないんですけども、この先どのように取り組んでいくか、何か今計画があれば、教えていただきたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

先ほど市長の答弁にもありました課題がたくさんあります。その課題を少しずつすり合わせるように、指導者も含めた関係団体、あるいは関係者といろいろと今の相談・協議を進めておるところですし、その地域クラブ自体の考え方がよく伝わるように、こちらのほうも指導者の研修会とか、そのような場面を、また準備する予定で進めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山本教育次長。〔教育次長 山本喜八郎君登壇〕

○教育次長（山本喜八郎君）

補足して、お答えさせていただきます。

今の指導者ということで、指導者の育成に対しまして、資格の補助等も今行っているところでございますので、そういったところも併せて指導者の育成にも努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

私がお話伺った指導者の皆さんは、すごく何ていうんでしょう、熱意があって、その競技がやっぱり楽しくて、やりたくてやってるし、習いに来る子にもそうであってほしいしという感じでお話をいただきました。

そういう指導者の方ばかりだとは私も思ってるんですけども、また、そのクラブ、その指導者によっては、なかなか、こう、部活動の延長でやってくる子供たちと今までの社会体育の時間でやっていた感覚との大きなギャップというのは、やっぱり想定されるころだと思っておりますので、丁寧に移行を進めていただければと思っています。

文化部なんですけれども、文化部の受皿はどのように考えてらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嵐口文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（嵐口 守君）

文化部でございます。

ただいま5つほどの部活がございまして、土・日、第一段階の土・日の移行につきましては、吹奏楽部が対象になっております。吹奏楽部につきましては、運よく、少し前から4校による合同練習会というものをやっていたいておりまして、先行的に施行していただいたというところであり

まして、そちらのほうにつきましては、今、受皿がございます。

ほかの部活につきましては、今後の在り方、今、平日のみでございますので、どのように動いていくかというのは、やはり私どももニュートラルに捉えながら、しばらく様子を見させていただきたいと思っております。いろいろなパターンが出てくると思っておりますので、その都度協議してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

まさに吹奏楽のこともお聞きしたいなと思っていました。吹奏楽部などは、楽器というか大きな楽器の運搬が伴うような部活動というのは、実施場所は、学校の音楽室で引き続きできるのか、その辺が私ちょっと全然イメージができていないんですけれども、どういうふうに今、移行されつつあるというお話だったんですが、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嵐口文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（嵐口 守君）

お答えいたします。

今、吹奏楽部につきましては、月1回の合同練習になっておりますけれども、たまたま市民会館のほうの空いている日を予約いただいております、そちらのほうで練習いただいております。もちろん楽器等につきましては、皆様、車等で運んでいただくこととなります。今後のことにつきましては、その回数頻度等ございますので、それは確かに課題だと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

1回目聞いたときは、結構順調なのかなと思ったんですけど、2回目聞いたら、あんまり順調じゃないかなというふうに感じました。月1回合同で練習ができるということなんですけど、これから、土・日・祝日は、全てそういうふうになっていくということなんだと思うんですけど、どうなのでしょう、令和8年度に完全に土・日・祝日の練習を移行することというのはできそうということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嵐口文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（嵐口 守君）

吹奏楽部、今の状況でございますと月1回開催していただいております。それは、市民会館で対応ができております。

私、今後の課題と申し上げましたのは、やはりその後の平日も含めた対応になってまいります。

その数年後になりましたときには、確かに課題でありますので、今の皆様と続ける中で協議をさせていきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

吹奏楽部だけじゃないんだと思うんですよね。多くの部活動でも、今こういうふうに先がどうなっていくか、ちょっと2年、3年の間に考えてかなきゃねというところだと思うんですが、今、中学生のお子さんがいらっしゃる保護者の方だったり中学生自身は、もしかしたら、もう自分たちが卒業してしまえば、これには関係してこないのあまり心配していないかもしれないんですけども、今4年生とか、5年生のお子さんがいらっしゃる保護者の皆さんは、これから部活動なくなったらどうなるのかなというのは不安に思っちゃると思います。

体を動かすのももちろんなんですけど、放課後の時間の過ごす居場所みたいな意味合いも強いと思うんですけども、それがなくなって社会体育に、例えば移行されたとして、時間が夜まで空きますよね。その間に1回おうちに帰るのかとか、多分、まさか学校でぶらぶらはさせてくれないんでしょうから、そういう放課後の居場所という意味合いではどうなのかなとか、いろいろ私も心配に思っているところです。何か方向性が見えてきましたら、また、教えていただければと思います。

(2) なんですけども、大の里の活躍で大変盛り上がっております。能生事務所から始まったパブリックビューイングなんですけども、先場所では、糸魚川会場、青海会場も設置されておりました。この大の里の優勝を受けて、県外在住者の皆さんも、全国放送で糸魚川市とか能生とか能生中学校、海洋高校を卒業と繰り返し実況されるのが、とてもうれしかったというようにお声も頂戴しております。

相撲クラブなんですけども、小学生、中学生が所属する、言わばエリートスポーツクラブということになるんだと思うんですけども、大の里自身が語るように、大の里、小学校6年生から相撲に集中できる環境を両親の反対を押し切ってでも自分の意思で選んできたというふうに語っています。

いじめの問題などがあって、平成29年度に決まり事が制定されたというのは理解しておりますし、またこのようなことがあってはいけないというのは私も強く思ってるんですけども、再発させないという前提の上で、志のある学生の受入れの体制をもう少し緩和させていくとか、親が必ずしも一緒じゃないと駄目というところから、何か一歩、二歩、また、より多くの志のある学生が来れるような取組に、また見直していくようなお考えがありませんでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

今のところ、教育長が申したように、平成29年につくりましたルール、親または親に準ずるものが生活を共にするということは、崩したくないと考えております。

ただ、いろいろ個々に状況が違うと思いますので、そういう志のある生徒さんが希望されるのであれば、よく状況を把握したり、必要な申請書、また書類等を出していただきながら、こちらで丁寧にしながら審査をしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

大の里の活躍について、市長も何かお考えであるとか、今後、この相撲というか相撲クラブ、相撲部を応援していくところで何かお考えがありましたら、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり我々が今、教育にも力を入れている一つであるわけですが、やはり早いうちに児童生徒が夢を持ち、目標を持って行動し、そして、その教育の中でそれを積み重ねていくということは大切なことだと思います。特に少子化の中においては、よりきめ細やかに子供たちに寄り添っていかなくちゃいけないことを考えたときには、やはりその夢に寄り添っていけるような環境づくりをしていくのも、私は、地域のやはり責任であったり、地域のやはり連携だろうと思いますので、なるべくそういう方向に持っていけるように検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

検討をよろしくお願いいたします。

（4）についてです。こちらなんです、すばやく能生の現状の稼働日数と利用者数、今お答えいただくことができれば、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

こちらの施設は、社会福祉協議会の所有となっております、福祉事務所のほうで報告を受けております。昨年度の利用人数につきましては、年間6,077人延べの利用者となっております。利用日数は、何と300日という状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今お答えいただいたように、大変熱心に皆さん練習していらっしゃいます。本当に毎日朝8時から3時頃まで練習して、その後、片づけして帰ってくるというのを皆さん続けてらっしゃるそうなんですけれども、今、会員数が60名で、そのほかに小学生の会員が10名、またその保護者の方が5名ぐらいというふうに聞いているので、75名ぐらいの方が構成員でいらっしゃるようです。

去年と今年5月に関係者の皆さんから、現状についてご要望を伺う機会をいただいております。これまで社会福祉協議会の予算措置で、小修繕を繰り返してきているんですけれども、業者さんも屋根がもう登ると抜ける可能性があるので登れないよという状態で、バケツを雨が降ると置いて、いつ屋根が落ちてきてしまうんだろうかという、若干の不安を抱えつつ、皆さん練習していらっしゃるそうなんですけれども。希望としては、今の場所のままがいいということではあったんですけれども、ゴールデンウィークやお盆とかのマリンドリームの繁忙期は、やっぱりもうそもそも行くことできなかつたり、出ることできなかつたり、車止められなかつたりということがあるので、その期間はやむなく練習はお休みしてるということだったんです。

行政から、木浦小学校の体育館に、例えば人工芝を敷いて、競技をしていただいて、ほか団体が使用する前にその人工芝のシートを、例えば片して利用していただくことってどうかというふうに打診されたということなんですけれども、未来永劫、木浦小学校を利用しろということならば、ちょっと体育館だとスペースが狭いので、コート2面というわけにはいかないもので、今のうちに、チームが何個もあるんですけど、交代交代で練習してる状況なんですけど、それがかなわなくなってしまうので、ずっとと言われるとちょっと難しいと思ってるんですけどという話だったんですが、その辺り、何か検討は進んでいらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

今ほどの状況は、私どもも社会福祉協議会を通して、そして昨年11月にもゲートボール団体の皆さんとも直接お話を伺いまして、聞いておる状況でございます。

ただ、コート2面という条件というところが、なかなか折り合いがつかなかったということがございまして、その後の調整というのがまだ進んでおりませんが、今いろいろ調査をしております、外にもう一面できないかどうかというところをいろんな、テントだったり、いろんなアイデアを今模索をしております、社会福祉協議会とも協議を進めていくという段階でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

雨の日も風の日も雪の日も皆さん練習していらっしゃるので、外のグラウンドでというのも、もしかしたら難色を示されるのではないかなとは思いますが、どうなんでしょう、健康増進とかそういう部分で見ても、皆さん、上の世代の方で90歳超えてらっしゃる会員の方もいらっし

やるというふうにお聞きしています。そういう方が健康に、みんなで会って、お話ししてというところで、私はすごくやっぱり健康増進にも寄与してると思うんですが、屋根があったほうがいいと思うんですけれども、その辺りも含めて検討いただきたいのと、木浦小学校の体育館なんですけど、週1回、スポレックで利用があるようです。そのほかにも地域の運動会で利用というのもあると思うので、またそういう部分も地域との、何ていうんでしょう、地域とのやり取りもしていただきながら、ゲートボールの皆さんも、いつ、ここで競技するのをやめろと言われてちゃうんだらうという不安を抱えていらっしゃるようなので、どちらも並行して協議していただきたいと思うんですが、その辺りいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺 忍君登壇〕

○市民部長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

確かに高齢者にとって非常に大事な施設でありますし、ゲートボール等が生きがいになっておられて、楽しみにもなっておると思います。非常に大事なことだと思いますので、今現存の施設も含めて生かせるかどうか、また移転先、屋根が必要だということでもありますので、その辺も考慮しながら、例えば木浦であれば地元の方とも協議しながら、進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、番号1の質問のほうに参りたいと思います。大分時間使ってしまったので、できるところまで進めたいと思います。

人口戦略会議の発表の報道があった後、その夜なんですけれども、20代の子から、糸魚川が消滅したらどうなるのというふうに、私に連絡が来ました。人口戦略会議の危機感を共有して、日本全体の人口が2100年に半減ではなく、8,000万人の水準での安定化を目指すべきとする提言は、これまでの人口減少対策は危機意識の共有や若者の意識を政策に反映させる姿勢が欠けていたことを指摘しています。

そこでなんですけれども、糸魚川市では、今回の報道の件で、市民に生まれた危機意識を好機と捉えて、若者、女性向けの施策が必要だと考えます。糸魚川市在住の20代から集めた声と、20代の子の中に消滅可能性都市の生き残り戦略というパワーポイントのプレゼンの資料まで作ってくれている方がいて、恐らくこども課あたりにプレゼンに、もう既に来てるんじゃないかなって思うんですけれども、課長に伝わってなさそうなんですけど、その内容も含めまして2回目の質問をしてみたいです。

なお、2回目の質問は（1）、（2）まとめて伺ってまいりますので、よろしく願いいたします。

若者みらい会議など、ほか自治体の取組もありますが、そのような取組のお考えありますでしょうか。



〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今、消滅可能性自治体になったことへの対応ということで、若者との話合い、懇談をしてはどうかということだと思います。

昨年、庁内の若手職員との懇談を行わせていただきました。非常に真面目に、真剣に考えていただいたといったところ、また、支援制度についてお聞きしたけれども、支援制度がきっかけとなってUターンしたのではないといったような意見があったところが、ちょっと印象的には残っております。今年度の開催につきましては、昨年、庁内でありましたけれども、庁内・外も含めまして、どのような形がいいのかというところを検討しながら、またぜひ開催をして、人口増といますか、人口減少対策に取り組みなければならないような世代で、世代に届くような施策というのを検討する材料をぜひ得ていきたいなというふうには考えてございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ということは、今まで、何か特別こういう施策をしていこうという話になったというのではないという理解でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今のところは、まだ具体的にどういうメンバーを集めたいとか、どういう方々とかいうテーマでお話をしたいというところまで、決まったものではございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

私にいただいた意見なんですが、また、若者会議など、もし仮に実施する場合であれば、言いたいことを言い放しにする会議じゃなくて、そこで出た要望や意見に対してアクションを起こすような会議にしたほうがいいのかというような意見がありました。例えばその会議体で要望書をまとめて、市長に提出して、そこに予算がつくというのがあれば、すごくあの、夢があっていいなというように言っていました。そのような取組があるといいなというお声なんですが、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も消滅可能性自治体の発表を聞きまして、非常に残念に思っております。我々は、やはり常に行政課題の、本当に最前線に我々は人口減少対策を挙げてきたわけですが、結果的にそういう状況がやはり出てきたということは、本当にもっともっと我々はどういうことをやればいいのかというのを考えていかなくちゃいけないだろう。そして、我々の今までの考え方をそのままいいのかという、やはりいろんな考え方を消滅可能性自治体と発表されたときに思いました。やはり若い最前線で頑張っておられる若い人たちの意見、そしてまた、これからの将来を担っていく若者の皆さんの方向性をしっかり道づけをしていきたいと考えている次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

市内では、30代以下のメンバーが主体の団体が、語り合いの事業を行っている団体が、私の知る限りで3つはあります。語り合いに市長がもし来たらどうかな、何か発言しにくくなるかなというふうに聞きましたら、いやそんなことない大歓迎というふうに言っていました。行政主導で新事業づくりもいいとは思いますが、市長自らこういった会にお出かけになられるのはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は、積極的に参加させていただきたいと思ってます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

そのように伝えておきます。

人口減少の原因と対策に、出産適齢期の女性をターゲットにすること自体に違和感を覚えるし、おかしな世の中になっていると感じるといような正直な感想だったりだとか、大前提、結婚や出産に関することは個人の選択の自由であって、国や自治体が介入していいことではないと思う。それなのに、なぜ産まないのか、なぜ子供が増えないのかという問いを、若い女性に問うということ自体は倫理的にどうなのかなとも思うというような率直なご意見もいただきました。

私も、若い女性向けとか出産ができるであろう年齢を想定したと、透けて見えるような施策はよくないと思うんですけれども、現状の施策や今計画しているものはどうか、これに照らし合わせて、

ご答弁いただきたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり今、前段の答弁でお答えいたしましたが、やはり何としても人口を増やしていきたい、子供を増やしたいという考えの中から、だんだんとやはりそういった今ご指摘いただいたようなところに、るつぽにはまったようなところも感じられるわけでごさいます、確かに当事者の皆様方にすれば、何でというところもあるのかもしれませんが。その辺はところを今、やはり率直に皆様方とやっぱり対話をするというところが少なくあったのかなと思っております。

そのようなことで、いろんなことをやはりもっともっと、なかなかそういう場面というのは、あるようで、見てると同じメンバーで繰り返してるところがあって、いろんなところに広がりがないところがございますので、その辺はやはりもっともっと改めて、どのような対応、また対策とか、どのような方向性、どのような行動をすれば、いろんな皆様方の意見が聴けるのかというところをちょっと工夫していかなくちやいけないんだろうと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

女性の定着を目指すまちづくりということ自体は、私もすごく正しいと思っています。

6月17日の議会初日の日のクローズアップ現代ご覧になられた方いらっしゃいますか。ちょっとうなずいてる方もいる。この内容で、地方から女性が消えていくというので、ウェブのニュースとかウェブの記事にもなっております、そこにいろんな世代の方から意見が寄せられているので、もしよかったら皆さんもご覧になってください。

地方から女性が消えてく理由の1つには、都会のほうがより自由だから、2つ目には、より多くのチャンスが得られる。3つ目には、女性の望むライフスタイルが実現しやすいがあるのだと思っています。

ただ、安易に少子化の問題を適齢期の女性を主語にして語って政策を打つということは、私は、それに対しては懐疑的です。まず、誰もが安心して暮らせる社会に早くしてくれよというのが、若者の率直な意見なのだと思います。

市長に伺いたいんですが、市長は、ここまでの行政運営で何を大切にしていらっしゃって、さらにこの先、糸魚川がどのようになる未来を描いていらっしゃいますか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は、やはり平成17年に合併してからの市長でございまして、その中でやはり一番大事にしてきたことは、やはり1市2町が一体感を持って、自分たちのふるさととなっていくことをやはり一番願いました。その基本的なものは何かというと、どういう方向でいくかということ、やはり愛着と誇りを持つ地域に持っていきたいということで取組をさせていただきました。

そのようなことで、いろんな施策をそういったところの根底には、そういう方向で進めさせていただきました。やはり今ご指摘のように、こういうところで住み続けたいとか、自分のふるさととは、こういうところであるべきだとか、いろいろこうなっていくときに、やはりそれには自分たちの住んでるところを誇りを持って、そして愛着を持って、進んでいただきたいわけでございますので、そのような方向性で参りました。

それにはやはり、基本的には教育であろうと。やはり私が以前、合併前なんですけど、いろいろ皆さんのお話を聞く中においては、糸魚川には何もない。そして、遊ぶところがないとか、働くところがないという話が結構あったもんですから、遊ぶところというのはなかなか難しい部分でございますので、働くところを中心にしていかなくちやいけないんじゃないかということで、産業振興という部分にも力を入れていきたいということで取組をさせていただきました。

そのようなことで、持続可能にしていくには、やはり愛着と誇りを持つために教育をしっかりしていこう、そして、そこで働ける環境をつくっていききたいということが大事だということで今までやってきましたし、これからもやはり持続していくには、やはりその方向で進めていければと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今日、本当は消滅可能性自治体に関するリストに含まれたという報道を見て、私にそれを見て自分も不安に思ったんだけど、それとは別で、糸魚川市の財政的には持続可能なのか心配だなどというようにお声も頂戴しておりまして、本当は今日は、財政の状況もお聞きして、その後に市民から寄せられている関心事の高い課題と取組について聞いていきたくはんですけども、ちょっと時間が押してきたので、また次の機会にさせていただきたいと思います。

これもいただいたお声なんですけど、妊娠・出産に関することは女性しか担えませんが、育児や子育ては、夫はもちろん、家族、地域、社会も担っていくものだと思います。経済、教育、医療などのサポートや仕組みが充実していれば、女性や子供を大切にする政治をすれば、必然的にもっと生きやすい社会になるように思うとのご意見をいただきました。この女性や子供を大切にするというところは、女性、子供、若者を優遇して甘やかすということではなくて、伸ばしていくというところに着眼して、私たちは仕事をしていく必要があるのかなというふうに私なりに理解をさせていただきました。このような彼女、彼らの思いに真摯に応えるべく、仕事を、働いてまいりましょう。よろしくをお願いします。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。